

(電子メール施行)
農技第1296号
平成28年8月10日

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

平成28年度病害虫発生予報第4号を發表します。

平成28年度病害虫発生予報 第4号

向こう1か月の病害虫発生予想

作物名	病害虫名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病(穂いもち)	やや少	平年並
	紋枯病	平年並	平年並
	縞葉枯病	平年並(一部で やや多)	平年並
	ヒメトビウンカ	やや多	平年並
	ツマグロヨコバイ	やや多	平年並
	セジロウンカ	やや多	やや多
	トビイロウンカ	平年並	平年並
	斑点米カメムシ類	平年並	平年並
	イネツトムシ	平年並	やや少
	フタオビコヤガ	やや少	やや少
コブノメイガ	平年並	やや少	
ダイズ	立枯性病害	平年並	やや少
	ハスモンヨトウ	やや多	平年並
野菜等共通	ハスモンヨトウ	やや多	やや多
	ハイマダラノメイガ	やや多	やや多
果樹共通	果樹カメムシ類	やや多	やや多

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(8月6日から9月5日までの天候見通し)

平成28年8月4日
大阪管区气象台 発表

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。近畿日本海側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気温】近畿地方	10	20	70
【降水量】近畿日本海側	30	40	30
【降水量】近畿太平洋側	20	40	40
【日照時間】近畿日本海側	20	40	40
【日照時間】近畿太平洋側	30	40	30

凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>

1週目 近畿地方	10	30	60
2週目 近畿地方	10	30	60
3～4週目 近畿地方	20	30	50

凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

1か月	: 8月 6日(土)～ 9月 5日(月)
1週目	: 8月 6日(土)～ 8月12日(金)
2週目	: 8月13日(土)～ 8月19日(金)
3～4週目	: 8月20日(土)～ 9月 2日(金)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【いもち病（穂いもち）】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

7月下旬～8月上旬の場内ほ場の調査では一部でやや発病が多いほ場もあったが全体的に発生は平年並みであった。7月下旬～8月上旬の現地ほ場の調査では、211ほ場のうち、41ほ場(19.4%)で発生が確認されているがその程度は低かった。

今後の気象条件は、気温は高く、降水量は平年並～やや多く、日照時間は平年並～やや多いと予想されており、本病の発生を助長する要因は少ない。穂いもちへの移行は少ないと考えられ、今後はやや少ない発生で推移すると考えられる。

2 【紋枯病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

場内ほ場の調査では一部で発病が確認されているがその程度は低かった。現地ほ場の調査では発生地点率は9.9%と平年並の発生であった。今後、気温の上昇と共に水平・垂直進展があると考えられるが、イネの茎数は少なく、平年並の発生で推移すると考えられる。

3 【縞葉枯病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並（西播磨地域でやや多）
(2) 予報の根拠

場内ほ場の調査では一部で発生が認められたがその程度は低かった。現地ほ場の調査では発生地点率9.4%と平年並の発生であった。今後の気象条件は本病を媒介するヒメトビウンカの増殖に好適と考えられ、県全体としては平年並の予想であるが、西播磨を中心とする同ウイルス保毒虫率の高い地域では、後期の発病の増加が予想されるため注意が必要である。

4 【ヒメトビウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

場内ほ場、現地ほ場の調査とも発生量は平年並であったが、今後の気象条件に伴い、イネでの増殖が進むと考えられる。

前年度に縞葉枯病が多発したほ場周辺では、今後とも注意が必要である。

5 【ツマグロヨコバイ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

場内ほ場、現地ほ場の調査とも発生量は平年並であったが、今後の気象条件に伴い、イネでの増殖が進むと考えられる。

6 【セジロウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

場内ほ場では平年並みの発生であったが、現地ほ場では発生ほ場率34.9% (213ほ場)とやや多い発生で、県下全体に発生が見られるほか、一部では多発ほ場もみられた。現時点で幼虫が多いほ場もあり、しばらくはやや多い発生状況で推移すると考えられる。

7 【トビイロウンカ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

県内の3カ所に設置している予察灯への飛来、及び場内ほ場での発生は確認していないが、現地ほ場では一部（発生ほ場率 4.2%）で発生を認めており、今後の発生状況に注意が必要である。

8 【斑点米カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

場内ほ場、及び県下3カ所の予察灯で、アカスジカスミカメ・アカヒゲホソミドリカスミカメ等の各種斑点米カメムシ類の発生を確認している。現地ほ場周辺においても、各種斑点米カメムシ類は確認されているが、発生量は平年並であった。出穂前の畦畔の除草管理等により今後は平年並の発生で推移すると考えられる。

9 【イネツトムシ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

場内ほ場での発生は確認されておらず、現地ほ場での発生もやや少ない状況である。今後の気象条件に伴い、平年並の発生で推移すると考えられる。

10 【フタオビコヤガ】

(1) 予報の内容

発生量：やや少

(2) 予報の根拠

場内ほ場での発生は確認されておらず、現地ほ場での発生もやや少ない状況である。今後はイネの生育に伴い食害のピークは過ぎるので、やや少ない発生状況で推移すると考えられる。

11 【コブノメイガ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

県内の予察灯への飛来は確認していないが、場内ほ場でごくわずかに発生が見られている。現地ほ場での発生もやや少ないが、世代の経過に伴い、平年並みの発生で推移すると考えられる。

ダイズ

1 【立枯性病害】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

場内ほ場では発生は認められていないが、現地ほ場では一部で発生が認められている（11.8%、76ほ場調査）。今後の気象条件は高温で推移すると予想され、茎疫病等が発生しやすいと考えられ、平年並の発生で推移すると考えられる。

- (3) 防除上の留意点

本病（茎疫病、黒根腐病）は排水が悪いと発生が助長されるため、急激な過灌水を避けるように注意する。

2 【ハスモンヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

場内ほ場では発生は認められていないが、現地ほ場では一部でふ化幼虫による白変葉の発生が認められている（22.2%、76ほ場調査）。今後の気象条件は高温でやや乾燥気味で推移すると予想され、やや多い発生で推移すると考えられる。

野菜共通

1 【ハスモンヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

加西市、南あわじ市におけるフェロモントラップ調査では6月以降の誘引量はやや多く、今後の気象条件は高温・乾燥が予想され、本種の増殖には好適であるため、今後栽培される野菜類では、やや多い発生状況で推移すると考えられる。

2 【ハイマダラノメイガ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

加西市におけるクレオメ（誘致植物）の調査では発生量はやや多く、今後の気象条件は高温・乾燥が予想され、本種の増殖には好適であるため、今後栽培される野菜類（アブラナ科）では、やや多い発生状況で推移すると考えられる。

果樹共通

1 【カメムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

県下各地域のフェロモントラップ及び予察灯への誘殺量は平年に比べやや多く、今後チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ等カメムシ類の活動が盛んになると考えられ、やや多い発生状況で推移すると考えられる。

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bo.jo/index.htm>)